



# ニューヨーク補習授業校だより

平成28年4月 第11号  
校長 青木 正彦

＜「28年度始業にあたってのメッセージ」 平成28年校長の始業式の式辞から＞

（現地校で5日間、英語を使つての学習と、補習校で1日、日本語を使つての学習では、期間が長くなればなるほど、英語が優位になっていくのは当然です。児童・生徒の英語の吸収のスピードは大人の想像を遥かに超えているようです。

算数の授業で、文章題が解けないとき、その文章の意味を英語で伝えればできるというのは、日本語の問題であることは明白です。そのレベルになると、授業の内容についても、相当理解が難しくなります。

家庭での日常の日本語と、授業での日本語のレベルは格段に違います。授業の内容が、日本語で理解するのに難しいと、宿題も相当きついです。宿題は授業の復習が基本ですので、日本語のレベルのバロメーターと思つていいのではないのでしょうか。

現地校での学習と英語の力が密接に結びついているように、補習校での日本語も同じことが言えます。授業だけでなく、せめて補習校の中にあつては、あらゆる場面を利用して、日本語を使つてほしいものです。）



さて、在校生の皆さん、進級おめでとうございませう。今年度、皆さんに頑張つてほしいことが2つあります。

補習校生活で、一番大事な時間は、いつですか。授業ですか。運動会のような行事ですか。それとも休み時間ですか。実は全部の時間なのです。なぜならすべて日本の文化に触れている時間だからです。日本の文化に触れる時は、日本語が必要です。ですから、授業の時間だけでなく、食事の時間も、休み時間も、必ず日本語を使いませう。

皆さんはアメリカで毎日英語を使つて生活しているわけですから、英語はどんどん上達していきます。日本語はいつ使つていますか。せめて補習校に一步入つた時から、出る時まで、ずっと日本語を使いませう。日本語で考へて、日本語で表現してくだされ。これが頑張つてほしいこと1つ目です。

もう1つは、チーム力を高めてくだされ。

大きな株というお話があります。株が大きすぎて、おじいさんが一人で頑張つても株は抜けませんでした。そこへおばあさん、孫娘、犬、猫、ねずみさんたちが来て、チームを作り、力を合わせたら、株が抜けたというお話です。

一人ではできないことでもチームワークで、できることはたくさんあります。授業で班を作つて学習するとき、運動会のような行事のとき、生徒会の活動のときに、チームの一員として、そのチームの力を十分に発揮させる工夫と努力をしてくだされ。仲の良い人ばかりを集めて、よいチームをつくるのではありませんで。どんな人ともです。どんな人ともチームになつたら、そのチームが、最大限の力を発揮できるように、チーム力を高めてほしいのです。

「日本の補習校では、日本語を使つて学びませう。」

「チームで活動する時は、チーム力を高めませう。」

この2つを頑張つてくだされ。先生方も皆さんの頑張りをしっかり応援します。一緒に頑張つてませう。